

## 【地方公共団体の名称】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

児童・生徒に1人1台配備した専用タブレット端末と学習支援ソフトやデジタル教材を効果的に活用し、一斉学習、個別学習、協働学習など様々な場面での情報収集や課題解決、意見の共有を通して、情報活用能力の育成を図ります。

杉並区教育委員会はこれまで学習支援ソフトを活用し、児童・生徒が授業で互いのさまざまな意見を共有し学習に取り入れ、考えを深める授業づくりに取り組んできました。これからはさらに、児童・生徒の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習課題や学習活動に取り組む「個別最適な学び」の機会の提供や、探究的な学習や体験活動等を通じて、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら社会の変化を乗り越える資質を身に付けるための「協働的な学び」を実現するための授業を目指します。

また導入されているデジタルドリルの実践的な活用事例の研修を実施し、取組内容を各校で共有し、授業中や家庭学習における利活用を促進します。

これらの個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のため、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて、学習者用デジタル教科書や学習コンテンツ、学習ログ(学習履歴)、各種調査データの活用、遠隔学習など学校教育におけるICT活用を推進します。

#### 2. GIGA第1期の総括

杉並区教育委員会では、平成26年度に大型提示装置としての電子黒板や書画カメラを全校に導入し、令和2年度にはGIGAスクール構想の実現に向けて、1人1台専用タブレット端末及び通信ネットワーク環境の整備を完了しました。教育委員会では機器の導入当初から、学びの実践のための取組として、教員がICTを日常的に活用し、より効果的な授業を展開できるよう、ICT活用についての知識や技術、電子黒板等ICT機器の活用方法について、教員向け研修会を継続的に実施してきました。

具体的には、教育委員会主催による集合型の学習支援ソフトの研修や、ICTの活用をテーマにした各校への支援として、済美教育センター指導主事等が講師を務める訪問型要請研修を実施してまいりました。また各学校の取組事例の共有を目的として、各校から1名、ICT教育を推進する教員を任命し、リーダーによる集合型研修やICT公開授業を実施してまいりました。その他、情報モラル教育やデジタルドリル活用事例についての研修の内容を教員が閲覧できるように、教員用タブレット端末へ研修動画の配信を行っています。

現状捉えている課題としては、学校や教員ごとに1人1台専用タブレット端末の活用率に差異がある点です。今後は各学校のICT活用率の全体的な向上を目標として、以下の内容に取り組んで参ります。

- ・指導主事が学校の実態に基づいた必要な研修を提案し、訪問型要請研修の充実を図るとともに、協働学習ソフトや学習者用デジタル教科書の活用等に関する集合型研修会を実施する。

- ・ICT授業公開の内容や実施時期など、教員がより参加しやすい工夫をすること。

- ・教職員が使いやすいように研修の動画閲覧サイトのレイアウトを工夫するとともに、校務システムを活用して周知を図る。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

教育現場における「1人1台端末の積極的活用」の実現にむけ、1人1台専用タブレット端末利活用の前提として、端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持します。加えて、端末の経年劣化に備え、予備端末の拡充を図ります。ICT支援員の配置については、学校における一層のICT利活用を支援していくため、ICT支援員の訪問回数をこれまでの週2回から令和6年度以降はおおむね週3回へ拡充しました。またデジタル教科書については、指導者用デジタル教科書については整備が完了しており、今後学校がより実践的に活用できるように、学習者用デジタル教科書の拡充を検討しています。具体的には、文部科学省「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」以外の区独自の主要教科の導入に向けた検討を行っています。

「個別最適・協働的な学びの充実」の実現のためには、まずは協働学習で利用する学習支援ソフトの活用率の向上を図る必要があります。学校ごとの活用状況のデータを教育委員会で集計したうえで分析を行い、「2. GIGA第1期の総括」へ記載のとおり、研修内容の充実を図ってまいります。

「学びの保障」への取り組みとして、希望する不登校児童・生徒への端末を活用した授業への参加の環境整備として、学習支援ソフトを通じた教師とコミュニケーションの強化や、オンライン授業の拡張に取り組めます。また特別な支援を必要とする児童・生徒が、障害の状態等に応じて在籍校において、学びの困難さを軽減するとともに、能力を引き出すような指導が受けられるよう、特性に応じたタブレット端末を特別支援学校及び特別支援学級に配備しているほか、障害のある児童・生徒のための端末・入出力支援装置を必要に応じて整備しています。これらの環境整備を通じて、学校が児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施できるよう、取り組んでまいります。